様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６２９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１６８３３

研究課題名（和文）中国北方のツングース系危機言語ホジェン語の文法記述とドキュメンテーション

研究課題名（英文）Documentation and Grammatical Description of Endangered Language Hezhen

研究代表者
李　林静（Li, Linjing）

成蹊大学・法学部・教授

研究者番号：４０５６７４１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、1)中国北方のホジェン語の言語資料の蓄積と公開、2)ホジェン語の文法記述の2点を目的とした。1)に関しては、図書1冊、テキスト資料5編、2)に関しては、動詞の進行相と結果相について、国際学会にて発表を行い、論文1編を公刊し、これまで蓄積されたデータに基づき、それらの詳細について記述を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究課題が開始した初年度に、5人以上いたホジェン語の話者は、研究期間中にも年々話者が減り続け、今では5人以下となり、ホジェン語も消滅寸前の言語となった。本研究は緻密な現地調査を重ね、ホジェン語の一次音声・映像資料を収集し、特に、複数名の話者がいないと成り立たないという日常会話のデータの収集、分析と公刊に力を注ぎ、今後の文法記述研究に貴重な資料を整備することができた。また、動詞アスペクトについて精査し、国際学会において発表し、ホジェン語のリアルな姿を世界に向けて発信することができた。

研究成果の概要（英文）：The aims of this research project are 1) the documentation and publication of the Hezhen language spoken in northern China; 2) the gramatical description of Hezhen. As regards 1), I published one book and five language texts with grammatical analyses of Hezhen. Regarding 2), I made a presentation at an international conference about the progressive and the resultative aspect of verbs. I also published one paper, and described them in detail based on the data accumulated so far.

研究分野：言語学

キーワード：ホジェン語　危機言語　ドキュメンテーション　文法記述　ツングース諸語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

(1) 本研究に関連する国内外の研究動向及び位置付け

研究対象であるホジェン語は中国黒龍江省に居住するホジェン族によって話されるツングース諸語（ロシア西シベリアから中国東北部にかけて分布する。中国領内 4 言語（満州語など）、ロシア領内 8 言語（ナーナイ語、ウデヘ語など））に属する言語である。ホジェン語の話者の大半がロシアとの国境にあるアムール川、ウスリー川沿岸に居住しているため、外国人の研究者が入りにくく、中国人の研究者しか自由に長期調査を行えない状況が続いていた。代表者が研究を始めた 15 年前には 20 人ほど流暢な話者がいたが、現在では 5 人未満という極めて危機的な状況にあるが、現在当該言語の記述とドキュメンテーションを継続的に行っている研究者は代表者以外にいない。

日本国内では、田村健二（1992）による名詞の所有表現について、津曲敏郎（1993）による満州語の影響について、風間伸次郎（1996）によるホジェン語の系統的位置についての研究があるが、これらいずれも主に文献資料に基いた断片的なものである。また、関連のある研究として、于暁飛（2005）によるホジェンの継承文芸である英雄叙事詩イマカンについての研究がある。

国外では 1980 年代後半に中国人研究者による簡略な文法ハンドブックが同時期に 3 冊出版されている。各研究者間の記述は食い違いが大きく、記述が不十分であるなどの問題があった。

ホジェン語のフィールド調査から得た音声・映像資料に基く本格的な記述研究は、本研究代表者がこれまで行ってきた研究が主要なものとして挙げられる。「ホジェン語の「-mi/-m」と「-re」について」（2003）では、先行研究の-mi/-m と-re という二つの副動詞の機能についての記述を、代表者の得たデータによって検証した。さらに、-mi/-m +biren と-re+biren（両方とも日本語の「～している」にあたり、-mi/-m +biren は西日本方言でいう「～しよる」、-re+biren は「～しとる」にあたる）という形に注目し、両形式と共起する動詞のアスペクト的性質が異なることについて指摘した。-re+biren という形式についての言及は本稿が初めてであり、両者の違いについての分析も本稿が初である。上述の biren は bi（「ある、いる」）の三人称単数非過去形であるが、その後の調査によって、他の人称と時制を含む網羅的なデータが得られたため、「ホジェン語のアスペクト体系」（2004）では、-mi/-m bi と共起する動詞は動作動詞、-re bi と共起する動詞は変化動詞であることを指摘し、ホジェン語のアスペクト体系を提示した。「ホジェン語の動詞構造」（千葉大学大学院社会文化科学研究科博士論文、2006）では、ホジェン語文法において、核心的な位置を占める動詞構造の全体像を明らかにした。「ホジェン語の動詞屈折形式とその統語機能」（2014）では、動詞構造における屈折形式について深く掘り下げた記述研究を行った。

これらの記述研究の基盤として、特に中国黒龍江省同江市街津口郷におけるフィールド調査による音声・映像データの収集、ドキュメンテーションを精力的に行ってきた。中でも特に、今後話者がさらに減少しに、当たり前のように行われている複数の話者による日常会話が消えてなくなる状況を想定し、日常会話データの収集に力を入れてきた。

(2) これまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯

近年、中国で 64 の少数言語が消滅の危機に直面しているとの研究結果が発表され、ホジェン語はさらに最も危機的状況の「すでに消滅寸前」の言語に分類されている。また、ホジェンの継承文芸である英雄叙事詩「イマカン」、伝統的な魚皮衣製法などが非物質文化遺産として登録されるようになり、現地でもようやく言語保存や次世代に言語と文化を継承していく動きが見られるようになった。例えば、同江市などでは、毎週末にホジェン語教室が開かれ、「イマカン」

の伝承活動が行われている。しかし、文法事項を理解しないまま、英雄叙事詩を丸暗記しても、ホジェン語を話せるようにならないのは実情である。にもかかわらず、言語学者による根気のいる文法記述、ドキュメンテーション作業は依然として行われていない。以上で述べたように、代表者はこれまで長期に渡り、ホジェン語のフィールド調査において、語彙、例文、民話、会話、歌などの多様な音声・映像資料を収集し、それに基いた形態論、統語論研究を中心に記述を行ってきた。得た資料及びそれに基づく成果物を調査の翌年に必ず現地へ還元してきた。この言語が消えゆく過程を冷静に見つめながら、まだ話者が存命のうちに、この言語が使われているあらゆる生活場面を記録・保存（ドキュメンテーション）しなければならない。したがって、さらなる一次資料の構築、文法情報、中国語訳、音声資料を付した成果物を刊行し、詳細な文法記述をおこなう本研究の遂行が急務となっている。

２．研究の目的

代表者の研究の全体構想は、ホジェン語を含むツングース諸語の接触・借用関係を明らかにし、言語接触による言語変化のプロセスを解明し、ホジェン語がツングース諸語における系統的位置を明らかにすることである。

その中での本研究の具体的な目的は、(1)これまでに出版されたテキスト及び代表者のフィールド調査によって得られた音声・映像資料をもとにホジェン語の形態・統語構造をより詳細に記述すること、(2)ホジェン語のドキュメンテーションを行い、得られた音声・映像資料を文字化し、文法情報を付して成果刊行し、今後の歴史言語学的研究のデータとして利用可能なかたちにととのえることである。

３．研究の方法

上記の研究を遂行するために、以下の方法をとった。(1)これまで代表者が収集してきた音声・映像資料を整理し、統合する。(2)収集してきた音声・映像資料のうち、未公開のものについて、文法情報、日本語訳、中国語訳を付し、公開に向けて形を整える。(3)現地に赴き、フィールド調査を実施し、新たな音声・映像資料の採録、未分析資料の分析・確認を行うほか、特に明らかにになっていない文法事項に関する聞取り調査を実施する。(4)ドキュメンテーション及び文法記述研究に関連する文献の調査を行う。(5)これまでドキュメンテーションされた資料を用いて、ホジェン語の記述研究を行う。

４．研究成果

(1) ホジェン語のドキュメンテーション研究に関する成果

本研究では代表者がこれまで収集した音声・映像資料を整理し、さらに中国黒龍江省同江市におけるフィールド調査（3 回）を実施して、新たにホジェン語の語り、会話の音声・映像資料を収集・分析してホジェン語のデータベースを構築し、文法情報及び日本語訳、中国語訳を付された著書 1 冊とテキスト資料 5 編を公刊した。内容は民話、日常会話、伝統習慣や伝統食の作り方についての語りなど多岐にわたり、言語構造の解明のみならず、先住民文化の記録・保存へ貢献することにもつながった。

(2) ホジェン語の文法記述研究に関する成果

代表者が継続的に従事しているホジェン語の文法分析をすすめた。とくに、動詞の二つのアスペクト形式（西日本方言の「シトル」と「シヨル」に類似する形式）についてより詳細な記述を

行い、国際学会にて 2 件の口頭発表をし、その記述を論文にまとめた。

注：ホジェン語はヘジェン語とも言う。2017 年 7 月に公表した業績より、本言語の英語表記 Hezhen に合わせ、ヘジェン語と表記することにした。ただし、本成果報告書においては研究題目に合わせてホジェン語のままとする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 李林静	４．巻 10
２．論文標題 ヘジェン語における二つのアスペクト形式-mi bi-と-re bi-について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『北方言語研究』	６．最初と最後の頁 117-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 李林静	４．巻 21
２．論文標題 ヘジェン語の語りテキスト(18) －尤文蘭氏口述 魚のデンブの作り方－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』	６．最初と最後の頁 201-242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 李林静	４．巻 9
２．論文標題 ヘジェン語テキスト（17）－民話　意地悪な兄嫁－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『北方言語研究』	６．最初と最後の頁 145-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 李林静	４．巻 8
２．論文標題 「ヘジェン語テキスト(16)－何淑珍氏、尤文蘭氏による会話　2015年夏の出来事(1)－」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『北方言語研究』	６．最初と最後の頁 147-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 李林静	4．巻 なし
2．論文標題 「ヘジェン語インタビューテキスト(3)－お産について(3)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ひろがる北方言語の地平線　中川裕先生還暦記念論文集』	6．最初と最後の頁 139-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 李林静	4．巻 6
2．論文標題 「ホジェン語会話テキスト(6)」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『北方言語研究』	6．最初と最後の頁 131-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 LI Linjing
2．発表標題 Progressive/resultative expressions around Japan-focusing on Hezhen
3．学会等名 The meeting of the the linguistic group, B02,Yaponesian genome project（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 LI Linjing
2．発表標題 “Converb + existential verb” forms -mi bi- and -re bi- in Hezhen
3．学会等名 14th Seoul International Altaistic Conference（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 李林静
２．発表標題 「黒龍江省におけるヘジェン語及びその保護・伝承実態」
３．学会等名 第６回　日中国際ワークショップ　現代中国における言語政策と言語継承ー少数言語（ダグル語）を中心に（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 李林静、山越康裕、児倉徳和	４．発行年 2018年
２．出版社 三元社	５．総ページ数 249
３．書名 中国北方危機言語のドキュメンテーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考